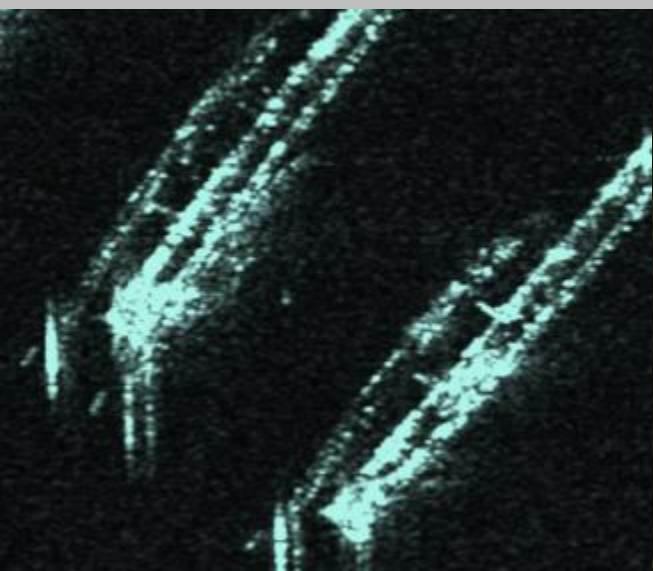


LumoScan

ミスチーフ礁に滞在する中国海上民兵船舶



DEEP DIVE

The Institute for Digital Investigations

ミスチーフ礁に停泊する中国海上民兵船舶の隻数増減、メザシ状態での停泊状況の変化のパターン分析から、2024年末までに、海上民兵による大規模な作戦が行われる可能性がある。

米国のシンクタンクであるCSISは、2021年11月に発表した"Pulling Back the Curtain on China's Maritime Militia"の中で、「2016年に南沙諸島に人工島前哨基地の建設を完了して以降、中国は南シナ海全域における平時の活動を支配することに重点を移してきた。この移行の主要な要素は、中国の海上民兵の拡大である」と述べている。海上民兵は、表向きは商業漁業に従事しつつ、実際には係争海域における中国の政治目的達成のために、法執行機関や人民解放軍とともに活動する船舶部隊である。

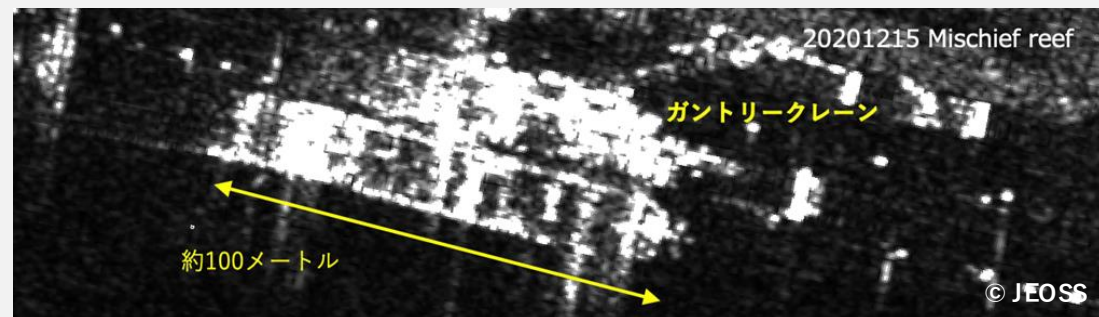
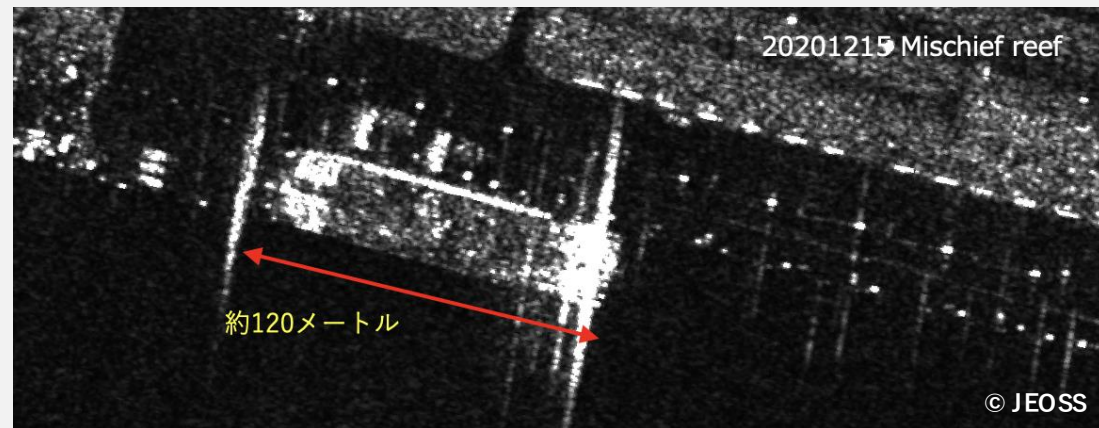
現在では、米国がBig 3と呼ぶミスチーフ礁、スビ礁、ファイアリークロス礁に、常時、一定数の海上民兵の船舶が停泊しており、これら人工島を拠点として、フィリピンと「領有権」を争うセカンド・トーマス礁やサビナ礁に展開していると考えられる。CSISのレポートは、2016年以降、Big 3において海上民兵に対する補給等の支援が行われていることを示唆している。しかし、本レポートにおける分析の結果、中国は必ずしも、完成直後に、これら人工島における海上民兵の船舶に対する支援を開始した訳ではないことが明らかになった。

2024年10月28日脱稿
DEEP DIVE 小原凡司

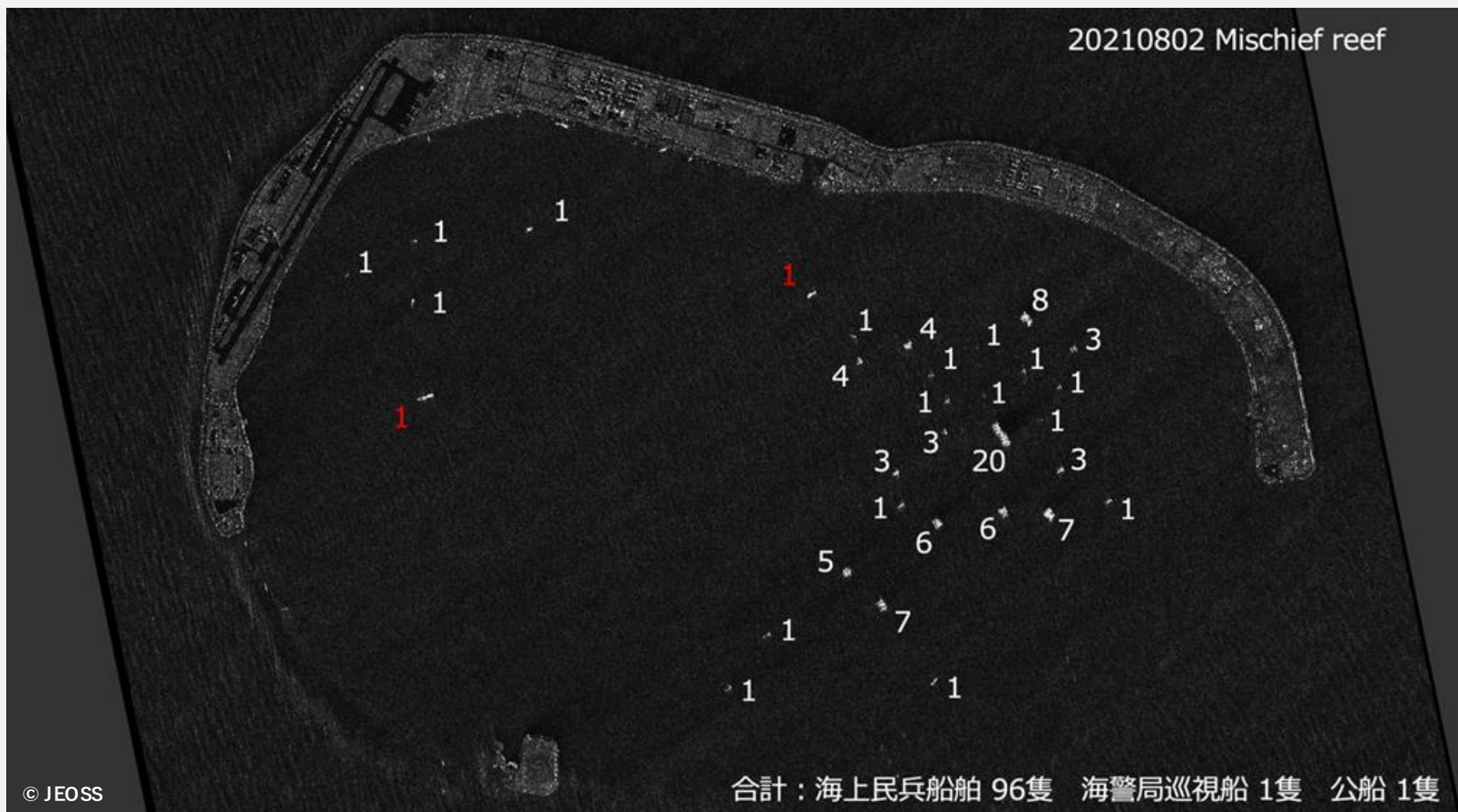


今回の分析に用いることができたのは2018年10月以降のミスチーフ礁の衛星画像であるが、少なくとも2020年6月までの間、礁内に停泊する海上民兵の船舶の数は一桁で推移している。

2020年後半の画像には、コンテナや車両を運搬する輸送船が岸壁で荷揚げしている状況が捉えられており、2021年に入ると、二桁の海上民兵船舶が確認されるようになる。

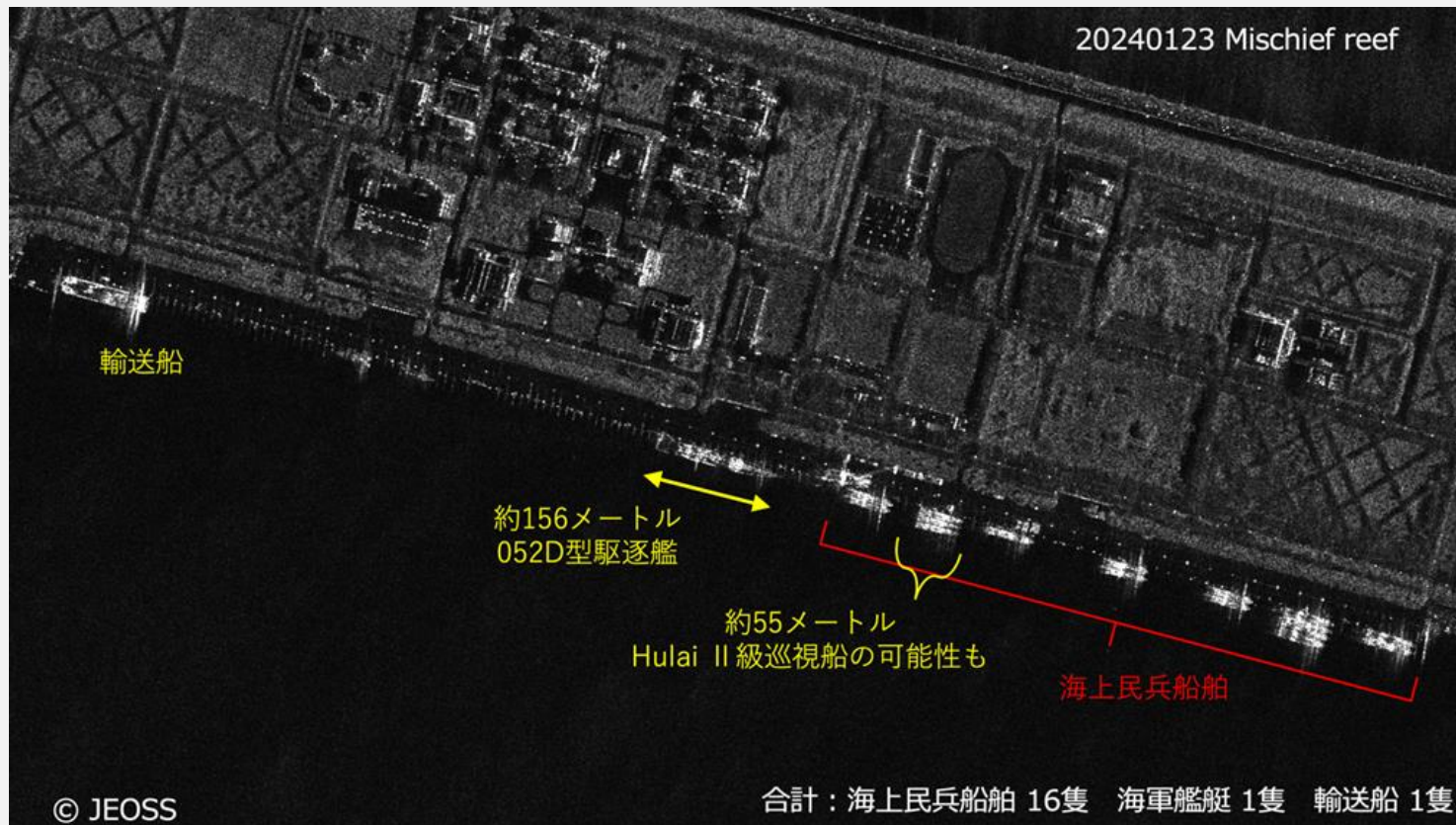


輸送船による車両や物資の輸送が活発化した後の2021年に、ミスチーフ礁に滞在する海上民兵船舶の隻数が劇的に増加している。同年8月2日の画像には、96隻の海上民兵船舶が捉えられている。2021年3月に中国は、フィリピンと「領有権」を争っていたウィットソン礁に220隻とも言われる海上民兵の船舶を展開して同礁を占拠しており、ミスチーフ礁を始めとする人工島が、こうした作戦に参加した海上民兵船舶の待機、補給等に使用され始めたと考えられる。

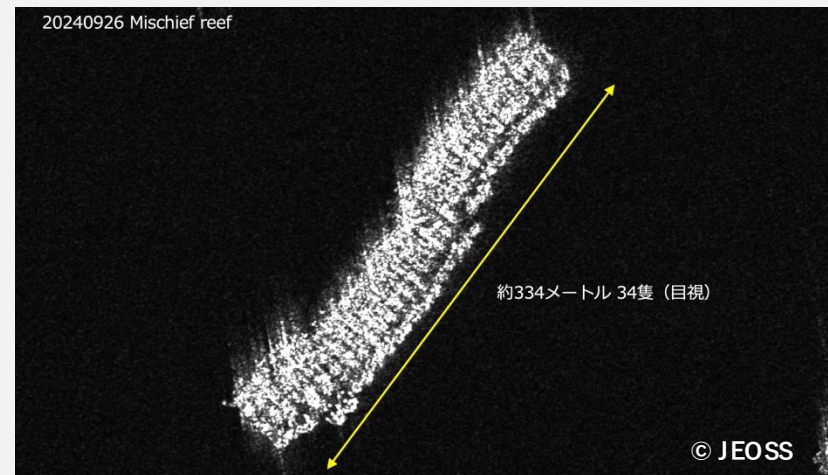
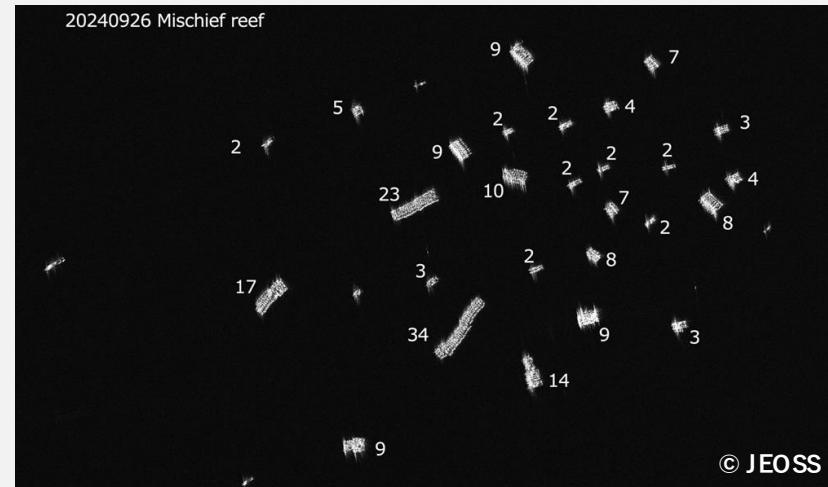


その後、同年10月19日には同礁に滞在する海上民兵の船舶数は29隻に減少し、同月25日には80隻に再び増加している。こうした増減からも、ミスチーフ礁が海上民兵船舶の後方支援基地として使用されていることが伺える。

2022年は海上民兵船舶の数が比較的低調に推移したが、2023年3月および6月に輸送船が大量のコンテナを陸揚げした後、同年8月には、同礁内に178隻の海上民兵船舶が確認された。同年はこれ以降、同礁内に、少ない時で100隻前後、多い時には200隻を超える海上民兵船舶が停泊している。さらに、同年12月12日および2024年1月23日には、海上民兵の複数の船舶が岸壁に係留されて補給活動を行なっている様子が確認された。これら船舶は交代で補給を受ける必要があることもあり、洋上で停泊する際に特徴的な多数の船舶がメザシになるフォーメーションが崩れる様子が確認できる。



2024年1月から2月にかけてミスチーフ礁内に停泊する海上民兵船舶の隻数が減少したが、その後増加に転じ、9月3日に152隻、同月12日に200隻を超え、同月26日には205隻に達した。メザシ状態である各船舶は拘束状態にあり直ちに行動を起こせないことから、これら船舶は待機状態にあると考えられる。多数の海上民兵船舶が待機している状況は、中国海上民兵が大規模な作戦を展開する兆候である可能性もある。10月10日も170隻の海上民兵船舶が複数のグループに分かれてメザシ状態で停泊している。




一方で、2025年も、1月頃から3月頃にかけて、ミスチーフ礁内の海上民兵船舶の隻数が減少するというパターンを繰り返す可能性がある。1月から2月にかけてミスチーフ内に停泊する海上民兵船舶が減少する理由として、春節に合わせて船舶を大陸の母港に帰還させている、あるいは、同時期に南沙諸島等で大規模な行動を行なっているなどが考えられる。もし、春節に合わせて多くの船舶を帰還させるのであれば、それまでに大量に待機させている船舶を使用する可能性がある。

2024年10月24日の衛星画像を見ると、メザシ状態で停泊しているフォーメーションが崩れつつある。少数の隻数によるメザシや単船に分離しているのである。待機している船舶が活動を開始する準備であるとも捉えられ、2024年末までに海上民兵を用いた大規模な行動が展開される可能性がある。

現段階で警戒すべき海上民兵による大規模行動は、以下の3つであろう。

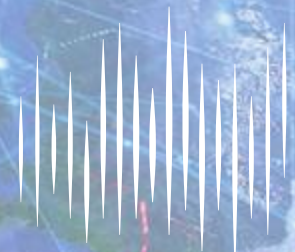
- 1 セカンド・トーマス礁に座礁しているフィリピンの軍艦「シエラ・マドレ」を撤去する際に、作業を妨害するために近接するフィリピン海軍およびコスタガードの艦船を大量の船舶でブロックする。
- 2 フィリピンがコスタガードの巡視船を再度サビナ礁に展開するのを阻止するために、サビナ礁内外に大量の海上民兵船舶を展開する。
- 3 スカボロー礁、セカンド・トーマス礁、サビナ礁のいずれかで人工島建設のための浚渫等を開始する際に、これら作業海域を妨害する他国艦隊の接近を大量の海上民兵船舶でブロックする。

今回の分析対象はミスチーフ礁のみで、同礁内の海上民兵船舶の動勢のパターンからしか行動の兆候を抽出しておらず、また撮像頻度が非常に低いため、分析の精度は不十分である。今後、1年の中での海上民兵船舶の増減のパターン、輸送船によるコンテナ輸送・海上民兵船舶に対する補給、およびセカンド・トーマス礁やサビナ礁における活動等の連関等について詳細な分析を進めることによって、中国の海上民兵を用いた南シナ海における行動の予測の精度が上がることを期待している。

The background features a stylized globe of the Earth, primarily in shades of blue and white, representing the Americas. Overlaid on the globe is a complex network of glowing blue lines and nodes, symbolizing global connectivity and digital data. The network lines are dense and form a mesh-like structure across the globe. In the upper portion of the image, there are faint, abstract digital patterns and lines in various colors (blue, red, green) against a dark background, suggesting a data center or server environment.

本レポートのご使用について下記を必ずお読みください。

1. 本レポートのフォーマットは改良等のために予告をした後に変更する場合がございます。
2. 本レポートの記載内容は、執筆者の分析に基づくものです。
3. 本レポートの記載内容について、弊社の許可なく転載・複写・配布することを禁止します。



DEEP DIVE

The Institute for Digital Investigations